

1 単元名 ペーパーサートで伝えよう～大好き！がまくんかえるくん～
「お手紙」

2 単元の見目標

- ・自分が感じた物語の良さが伝わるように、音読劇をしようとしている。 【国語への関心・意欲・態度】
- ・語のまとまりや言葉の響きに気を付け、声の出し方などを工夫して音読することができる。

【読むことア】

- ・場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読むことができる。

【読むことウ】

- ・物語を読んで自分の経験と結び付けて、感想を発表し合うことができる。

【読むことオ】

- ・文の中における主語と述語の関係に注意して読むことができる。

【伝国イ（カ）】

3 指導にあたって

(1) 教材観

- ・言語活動 シリーズ4作品の中から大好きなお話を選び、音読の工夫を考え、お話しの良さをペーパーサートで演じて学級の友だちに紹介する。(グループ活動)

だい名 あしたするよ えらんだわけ	いえのかたづけがめんどうながまくんが、「あしたするよ。」ばかり言っているのがおもしろいからです。わたしも、自分のへやがちらかっているも「あしたすればいいか。」と思うことがよくあります。	本文 (がまくん役) がまがえるくんは めをさしました。 「ちえつ。」↑いやそうに小さく と、いいました。	「このうちつたらすごいちらかりようだ。かたづけがたいへんだなあ。」↑ゆつくり すると かえるくんがまどからかおをだしました。 「やあ がまくん。そのとおりだよ。すごくちらかっているよ。」	(省略) 「きみのいすほりだらけだ。」 「あしたするよ。」↑ゆつくりいやそうに と、がまくん。	「きみのまどみがなくなっちゃ。」 と、かえるくん。 「うえきにはみずをあげなくちゃ。」 「あしたするつてば！」↑つよつよはやく と、がまくんはさげびました。
------------------------------	---	--	--	--	---

本単元は「読むこと（1）ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。」「読むこと（1）ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」を受け、二人の登場人物の行動や会話を中心に心情と心の通い合いを読み取り、読み取ったことを音読に生かすことをねらいとしている。また、「読むこと（1）オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。」を受け、自分が手紙をもらったときの気持ちを想起したり、中心教材『ふたりはともだち』所収「お手紙」他、同シリーズの作品を取り上げたりすることで、想像を広げたり理解を深めたりすることができる。と考える。

本単元の中心教材「お手紙」は、友達の不幸せと一緒に悲しみ、幸せを共に喜ぶほのぼのとした心情を描いた作品である。特別な事件が起こるわけでもなく、四日遅れの、しかも内容の分かっている「お手紙」を仲良く待つ二人。友達どうしの心の交流は、読み手までも幸せな気持ちにさせる。補助教材のシリーズ作品も同様、二人の可笑しく、温かい心の交流が描かれているので、児童は楽しみながら読み進めることができる。と考える。

(2) 児童観

朝読書の時間だけでなく、隙間の時間があると進んで読書をする児童が多い。本校の取り組み「おすめの本50冊を読もう」では約半数の児童が50冊の本を読み終えている。また、「読書の日」には、「読書日記」に取り組んでおり、お気に入りの理由だけでなく、自分と結び付けて読む力も少しずつ身につけてきている。

1年次では物語教材全てにおいて音読発表会を行ってきた。吹き出しを使ってせりふを付け加えたり、動作化や紙芝居で表現したりと様々な経験を積んでいるが、ペープサートは初めてである。単元を貫く言語活動を中心に据えた単元学習も日常化し、単元末のゴールを意識して学習を積み重ねている。2年次「ふきのとう」では、動作化を取り入れながらグループで役割を決めて音読発表会を行った。登場人物の気持ちを読み取る際には叙述を根拠に考えることができた。ほとんどの児童が語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができるが、声の大小や速さ、間の取り方など多様な工夫ができる児童は半分ほどである。

(3) 指導観

本単元の学習ゴールは、「言語活動例イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。」を受け、ペープサート式の音読劇を設定した。シリーズ作品には、「お手紙」同様、がまくんのわがままさ、かえるくんの優しさ、またお互いを思い合う心など良さがたくさん詰まっている。並行読書を通して自分の大好きな一冊を見つけ、グループで発表させたい。

一次では、図書ボランティアの方にブックトークを行ってもらうことで、アーノルド・ローベルの作品に関心を持たせる。その際、単元末の言語活動モデルの提示を兼ねてペープサートを用いて読み聞かせを行い、明確なゴールイメージを持たせたい。その後、並行読書コーナーを設置し本に触れる機会を多く持てるようにする。児童は読んだお話を記録するカードに色を塗りながら読み進めていく。

二次では、「お手紙」の内容の大体をおさえたうえで、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読んでいく。学習ゴールである音読劇での工夫につながる大切な時間なので、根拠や理由を示しながら読み進めていく。音読の工夫を考える際は、「お手紙」で学んだ読みをすぐに自分の選んだ本の読みに生かすために、入れ子構造で授業を展開していく。がまくんのわがままさや、かえるくんのやさしさなど、読み取ったことを根拠に音読の工夫を考えさせたい。

三次では、二次で学習した音読の工夫をグループで伝え合いより良いものにしていく。その後ペープサートの練習の時間を設け、音読劇を発表し感想を伝え合いたい。「楽しい発表会」で終わることのないよう、「声の出し方の工夫」など、見る側の視点をはっきりと与え活動させたい。

(研究テーマとの関わり)

【仮説2】との関わり

本学級の児童には、思い込みや自分の解釈で物語を読み取ってしまう課題がある。そこで、**大切**を与えることで、根拠をもとに正しく読み取ることができるようになる考えた。**大切**＝「根拠」をもとに「大きな声で」「ゆっくりと」など、音読の工夫を考えさせていきたい。

本時では、**大切**をもとに場面の様子を想像していく。「鳳至発表のABC」を使いながら児童は発言するが、まだ難しい児童もいるので、「どこから考えたのか。」「どうしてそう思ったのか。」と切り返すことで根拠と理由をおさえていきたい。

4 指導計画と評価規準（総時数 11 時間）

次	時	狙い	主な学習活動	評価規準	評価の観点				
					関	話聞	書	読	伝
一次	1 ・ 2	単元のゴールを確認し、学習計画を立てる。	・アーノルド・ローベル作品のブックトークを聞き、並行読書をすることを確かめる。 ・学習計画を立てる。	・アーノルド・ローベルの作品を読んで音読劇をするに関心をもち、学習の見通しをもとうとしている。 （発言・行動観察） ・紹介された本を、自分の知識や経験、読書体験と結び付けて読んでいる。 （発言・行動観察）	○			○ オ	
	3	「お手紙」を読み、内容の大体を捉える。	・挿絵と結び付けながら、お話の内容を整理して読む。	・時、場所、人物、出来事などお話の大体の内容を捉えている。 （発言・ワークシート） ・主語と述語の関係を理解している。 （発言・ワークシート）				○ ウ	○ イ（カ）
二次	4 （本時）	がまくんとかえるくんの行動や会話に着目し、場面の様子を想像しながら読む。	・二人の行動と会話に着目し、場面の様子を想像しながら読む。	・登場人物の行動や場面の様子などについて、叙述をもとに想像を広げながら読んでいる。 （発言・ワークシート）				○ ウ	
	5	好きな場面や好きな本についてそのわけを伝える。	・「お手紙」の好きな場面とそのわけを伝える。 ・「シリーズ作品」の中から好きな本を見つけそのわけを伝える。	・自分の好きな場面や選んだ本について、自分の知識や経験、読書体験などと結び付けて発表している。 （発言・ワークシート）				○ オ	
	6 ・ 7	登場人物の行動や会話、場面の様子にあった音読の工夫を考える。	・「お手紙」の音読の工夫を考える。 ・「選んだ本」の音読の工夫を考える。	・登場人物の行動や会話、場面の様子にあった音読をしている。 （行動観察・ワークシート）				○ ア	
	8	声の出し方を工夫して音読する。	・グループに分かれ「お手紙」の好きな場面の音読劇をする。	・語のまとまりや言葉の響き、声の出し方などを工夫して音読している。 （行動観察）				○ ア	

三 次	9 ・ 10	音読発表に向け、工夫しながら音読する。	・グループに分かれ、自分が考えた音読の工夫を伝え合い、より良い音読にしている。 ・ペープサートの動かし方を練習する。	・登場人物の行動や会話、場面の様子にあった音読をしている。 (行動観察・ワークシート)				○ ア	
	11	音読発表会を行い感想交流する。	・音読劇を発表し、感想を伝えあう。	・選んだお話の良さが伝わるように音読劇をしようとしている。 (行動観察) ・語のまとまりや言葉の響き、声の出し方などを工夫して音読している。 (行動観察・ワークシート)	○			○ ア	

5 本時の学習（11時間中4時間）

- (1) 狙い がまくんとかえるくんの行動や会話、挿絵に着目し、手紙を待つがまくんの様子を想像しながら読むことができる。
- (2) 評価規準 登場人物の行動や場面の様子などについて、叙述をもとに想像を広げながら読んでいる。
【読むことウ】
- (3) 準備 全文シート（掲示用）、挿絵、ワークシート、付箋
- (4) 展開

	学習過程	学習活動	評価 (◎) 支援 (○) 留意点 (・)
つかむ	1 本時の課題をつかむ (5分)	○がまくんはどんな気持ちで玄関に座っていたのだろう。 ・かなしいな。 ⇒ お手紙を待つ時間だから ・今日も手紙が来ないな。 手紙をもらったことがないから 〈どうしてがまくんは4日間手紙を待つことができたのだろう。〉 大切 絵や会話から	・単元のゴールを意識させ、課題を提示する。 〈教えること〉 挿絵からがまくんの心情を想像し、会話をもとに理由を考える。
考える	2 がまくんの気持ちを考える (15分)	○どんな気持ちで4日間手紙をまっていたのかな。 ・どうせもらえない ・ぼくだってお手紙ほしい ・ゆうびんうけはいつも空っぽだから ・今まで一度ももらったことがないから ・もう待つのがつきたよ ・待つのをやめようかな ・まっけていても全然来ないから ・自分ならもう待つのをやめてしまうから ・早く手紙が届いてほしい ・読むのが楽しみだな ・かえるくんが手紙を書いてくれたから ・もうすぐ手紙が届くから	・根拠とした挿絵に書いた付箋を貼る。 〈考えさせること〉 登場人物の行動や会話から、がまくんの心情がどう変化したか。
深める	3 かえるくんの優しさについて話し合う (10分)	○かえるくんのやさしさを見つけよう。 ・がまくんに手紙を書く→喜んでほしい ・かたつむりくんにお願いする→驚かせたい ・ずっと窓の外を見ている→諦めてほしくない	・「手紙が届くということだけで幸せな気持ちになったのかな」と切り返すことで、かえるくんの優しさに気づかせ考えを深める。
まとめる	4 まとめる (10分)	○がまくんになって、かえるくんにお返事を書こう。 かえるくんへ 手紙をくれてありがとう。手紙が届いてすごく幸せだよ。ぼくのために手紙を書いてくれてありがとう。いっしょに待っていてくれたからぼくも4日間がんばって待つことができたよ。	・考えが出にくい場合は挿絵に着目させ、かえるくんの行動を確認する。
まとめる	5 ふりかえる (5分)	○わかったこと、できたことを振り返ろう。 ・二人の会話から、幸せな気持ちがわかったよ。 ・〇〇さんの考えを聞いて、がまくんとかえるくんの気持ちがわかったよ。	◎ 登場人物の行動や場面の様子などについて、叙述をもとに想像を広げながら読んでいる。 (発言・ワークシート) ○かえるくんの優しささに着目して手紙を書くようにする。

(5) めざす児童の姿

かえるくんへ

手紙をくれてありがとう。ぼくはずっと手紙がもらえないと思っていたけど、かえるくんが手紙をくれてすごく嬉しいよ。これからもずっと親友でいようね。

かえるくんへ

かえるくんが手紙を書ってくれたって教えてくれたから、ずっと待つことができたよ。ぼく、手紙をもらえてすごく幸せだよ。宝物にするね。今度はぼくからお手紙を書くね。かえるくん大好き

(6) 板書計画

かえるくんへ
手紙を書いてくれてありがとう。手紙がとどいてすごくしあわせだよ。いっしょにまっついてくれたからぼくも四日間がんばってまっつことができたよ。

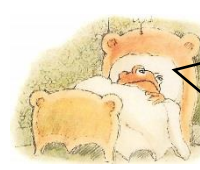
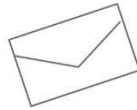
四日たって・・・

しあわせ



早くとどいてほしい
楽しみだな

かえるくんが
手紙を書いてくれた
もうすぐ
手紙がとどくから



もう、まつのつかれた
まつのやめようかな

ぜんぜんこない
じぶんなら
まつのをやめてしまう

ふしあわせ



どうせこないよ
ぼくもお手紙ほしい

ゆうびんうけは
いつも空っぽ
今まで一ども

もらったことがない

大切絵と会話から



あきらめてほしくない



びっくりするかな



よろこんでほしい



かえるくんのやさしさ



ペーパーサートでつたえよう！大きさがまくんかえるくん！
「どうしてがまくんは、四日間手紙をまっつことができたのだろう。」